

2022年12月16日

一般財団法人建設業振興基金

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

**建設技能者の能力・経験を客観評価する「CCUS」の全面普及に向け、  
建設業振興基金とあいおいニッセイ同和損保が連携協定を締結  
～全国の建設業組合・団体を通じた積極的なセミナー開催等を通じて CCUS 取得を強力に支援～**

一般財団法人建設業振興基金(理事長：谷脇 暁、以下「建設業振興基金」)と MS&AD インシュアランス グループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社(代表取締役社長：新納 啓介、以下「あいおいニッセイ同和損保」)は、2022年12月16日付で、国が建設業界への全面的な普及を目指している「建設キャリアアップシステム(以下、「CCUS」)<sup>※1</sup>」のさらなる普及に向け、連携協定(以下、「本協定」)を締結しましたので、お知らせします。

※1 建設技能者の能力・経験に関する業界横断的な客観的評価の手法として、保有資格や就業履歴等を一枚のカードに登録・蓄積し、技能者の適切な処遇につなげるための仕組みのこと

**1. 背景・目的**

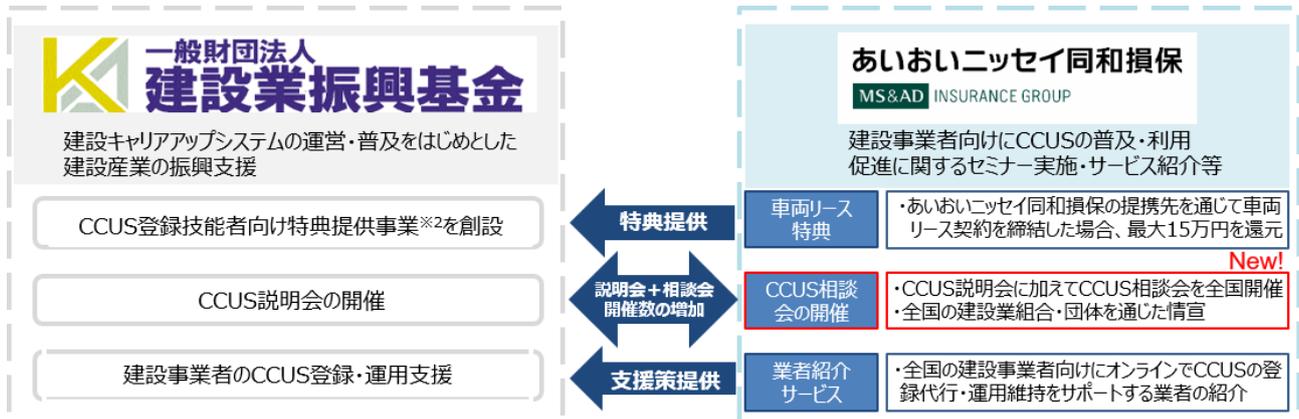
建設業界における担い手確保が喫緊の課題となっています。国土交通省によると、2025年度時点における建設技能者数は、加齢に伴う大量退職や少子化進行を背景に、2015年度比で44万人も減少するとされています。担い手確保のために建設業界を「魅力ある産業」にすることが求められていますが、一人ひとり異なる現場で経験を積む建設技能者の能力を客観的に評価できる業界横断的な仕組みは長年存在せず、スキルアップを処遇の向上につなげづらい構造的な問題点が課題となっていました。

こうした状況の解消に向け、各建設技能者にIDを割り振り、評価の基礎となる就業歴や保有技能といった客観的な情報を業界横断的に蓄積するCCUSが2019年4月から運営され、2022年10月末時点の登録者数が100万人を超えました。しかし、建設技能者数は全国で300万人ともいわれており、さらなる登録の拡大が課題となっています。

今般、CCUSの更なる普及を後押しするため、CCUSの運営全般を担う建設業振興基金と中小企業マーケットに強みを持つあいおいニッセイ同和損保は、本協定を締結することとしました。

**2. 協業の取り組みについて**

本協定の締結により、あいおいニッセイ同和損保は、建設業振興基金が運営する「CCUS認定アドバイザー」の資格を持つ講師を招いて、全国各地で「CCUS相談会」を開催し、CCUSの登録・運用実務に関する支援を行います。また、全国の建設業組合・団体を通じてセミナー情宣を行うことで、より多くの建設事業者の皆さまに対しCCUS登録・運用支援が可能となります。



※2 CCUS登録技能者を応援・サポートする企業等の特典情報を建設技能者に提供する仕組み

### 3. 今後の展開

本協定を通じて、建設業振興基金とあいおいニッセイ同和損保は CCUS の普及を図ることで、建設技能者の「賃金」「待遇」の改善を一層支援し、質の高い担い手の確保に向けた建設業界の変革を目指します。

以上